

9・10 技術・家庭科

(1) 観点別学習状況の評価例

■技術的分野 の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参 照	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	生活や社会の中から技術に係る問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
■技術的分野 の「評価の観点及びその趣旨」 ※『「指導と評価の 一体化」のための学 習評価に関する参考 資料』参照	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
○授業の構想 と学習評価 (例)	製作図、回路図など理を理解できる。 適切な機械、工具を操作できる。 プレゼンテーションを制作できる。 コミュニケーションをとりながら、協働できる。 タブレットの操作ができる。	プレゼンテーションの発表や評価ができる。 機械や工具の使い方を工夫できる。 材料や加工法に応じて適切な機械や工具を選択できる。 コミュニケーションを通じて、よりよい協働集団を作れる。	タブレットの適切な使用を通じて、学習効果を高められる。 教科書やウェブサイトなどを主体的に参照できる。 コミュニケーションを通じて、友人の制作や製作を適切に助け合おうとしている。
	≪B 基準の例≫ ・タブレットスタンドの4足接地や枠形成などの制作工程を終えて作品を完成させることができる。	≪B 基準の例≫ ・タブレットスタンドの表面デザインを考え、そのデザインを加工により表現している。	≪B 基準の例≫ ・タブレットスタンドの制作工程を表にまとめることができる。

■家庭的分野 の目標 ※『学習指導要領』 (平成29年告示)参 照	知識及び技能 家族・家庭の機能について理 解を深め、家族・家庭、衣食 住、消費や環境などについて、 生活の自立に必要な理解を図 るとともに、それらに係る技能 を身に付けるようにする。	思考力・判断力・表現力等 家族・家庭や地域における生 活の中から問題を見いだして 課題を設定し、解決策を構想 し、実践を評価・改善し、考察し たことを論理的に表現するな ど、これからの生活を展望して 課題を解決する力を養う。	学びに向かう力人間性等 自分と家族、家庭生活と地域 の関わりを考え、家族や地域の 人々と協働し、よりよい生活の 実現に向けて、生活を工夫し創 造しようとする実践的な態度を 養う。
■家庭的分野 の「評価の観 点及びその趣 旨」 ※『「指導と評価の 一体化」のための学 習評価に関する参考 資料』参照	知識・技能 家族・家庭の基本的な機能に ついて理解を深め、生活の自 立に必要な家族・家庭、衣食 住、消費や環境などについて理 解しているとともに、それらに 係る技能を身に付けている。	思考・判断・表現 これからの生活を展望し、家 族・家庭や地域における生活の 中から問題を見いだして課題 を設定し、解決策を構想し、実 践を評価・改善し、考察したこ とを論理的に表現するなどして 課題を解決する力を身に付け ている。	主体的に学習に 取り組む態度 家族や地域の人々と協働し、よ りよい生活の実現に向けて、課 題の解決に主体的に取り組ん だり、振り返って改善したりし て、生活を工夫し創造し、実践 しようとしている。
○授業の構想 と学習評価例	中学生に必要な栄養素 中学生に必要な栄養素を理解 して自分の食生活を見直すこ とができる。 「評価方法」 ワーク、ノート、ペーパーテスト	中学生に必要な栄養素を満た す献立を作成 中学生に必要な栄養素や自分 に必要な栄養素を考えて献立 を作成する。 「評価方法」 ワーク、ノート、レポート	地域の食材食文化 地産地消や食品ロスについて 学び地域の食材や食文化を調 べ持続可能な食生活について 意欲的に考えることができる。 「評価方法」 ノート、レポート、製作品、ふり かえり
	「B 基準の例」 五大栄養素について、それぞ れの働きを理解して、1 日に必 要な食品の種類と概量につい て理解している。	「B 基準の例」 中学生の栄養の特徴を理解 し、バランスのとれた献立を考 えることができる。	「B 基準の例」 行事食や郷土料理を自分の食 生活に取り入れ実践し、レポー トにまとめることができる。

(2) 年間指導計画

技術家庭科の目標

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活の技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。

① 1学年

技術科 第1学年の目標

- (1) 材料と加工の技術の学習を通じて、材料の特性や加工方法を身に付ける。
- (2) 製作図や工程表を活用して、製作の手順を作る。
- (3) 情報の技術の学習を通じて、セキュリティやモラルの基礎を身に着ける。プログラミングの基礎を身に付ける。
- (4) コミュニケーションを通じて、協働して生活を向上する意欲を育てる。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	材料と加工に関する技術(9) 情報の技術(4)	・製作図 ・投影法 ・木材の種類と性質 ・木材の知識、各部の名称、特徴、強度 ・木材製品の設計 ・パソコンによる完成予想図	・定期テスト (知)(思) ・ノート (知)(思)(主) ・レポート (知)(思)(主) ・作品製作 (知)(思)(主) ・タブレットの活用 (知)(思)(主)
5			
6			
7			
9	材料と加工の技術(14)	・木材加工製作 ・けがき ・切断 ・かんなくすり ・加工	・行動観察 (主) ・授業中の発言 (主)
10			
11			
12			
1	材料と加工の技術(3)	・組立て ・仕上げ	
2	情報の技術(5)	・完成レポート作成	
3			

家庭科 第1学年の目標

- (1) 家庭、家族の基本的な機能と、家庭生活と地域のかかわりについて理解する。
- (2) 食事の役割や健康と食事のかかわりを理解し、自分の食事のとり方について考え、工夫しようとする。
- (3) 基本的な日常食の調理ができる。
- (4) 自分や家族の生活を豊かにするために、自分らしいアイデアや工夫で、布を用いた作品を作ることができる。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	家族・家庭生活	・人の一生を考え今の自分を意識する ・家族・家庭の機能を考える ・家族・家庭を支える経済	・ワークノート ・課題レポート ・定期テスト ・調べ学習 ・製作物の計画と記録
5	家族のはたらきと家庭の仕事 様々な家族・家庭	・多様化する家族 ・ジェンダー ・ウェルビーイング	
6	多様な家族関係 食生活 食事の役割	・食事の役割 ・毎日の食習慣と健康の基本 ・食品と栄養素・栄養素のはたらき	
7	被服実習	・エコバックの製作	
9	6つの基礎食品群	・食品を栄養的特質によって6つのグループに分け、バランスよく栄養素をとるための基本を知る ・調理実習 ・1日の献立で悪い献立と良い献立を点検する ・消費期限と賞味期限について知る	・ワークノート ・課題レポート ・定期テスト ・製作品 ・調べ学習 ・問題発見、課題設定 ・作業記録
10			
11	中学生に必要な食事 食品と調理		
12	生鮮食品の選択と保存 加工食品の選択と保存		
1	郷土料理と食文化	・地域の食材と食文化について理解する	・課題レポート ・定期テスト ・調べ学習 ・振り返り
2	持続可能な食生活	・食品ロス、世界の食糧生産、飢餓を考える	
3			

② 2学年

技術科 第2学年の目標

- (1) エネルギー変換の技術の学習を通じて、エネルギー材料の特性や活用法を理解し生活に生かす。
- (2) 回路図や工程表を活用して、製作の手順を理解する。
- (3) 情報の技術の学習を通じて、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを活用する。プログラミングの基礎を身に付ける。
- (4) コミュニケーションを通じて、協働して生活を向上する意欲を育てる。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	エネルギー変換の技術(4) ・電気の種類と特性 ・発電、変電、送電	・エネルギーと発電方法	・タイピングテスト (知)(主)
5	情報の技術(8) ・キーボードとセキュリティ ・プログラミング ・情報モラル	・キーボード ・セキュリティ ・プログラミング ・情報モラル教育(人権)	・定期テスト (知)(思)(主)
6	・プレゼンテーションソフトの活用	・プレゼンテーションの制作	・エネルギー変換の技術 (知)(思)(主)
7			・ラジオの製作 (知)(思)(主)
9	エネルギー変換の技術(16) ・ラジオの製作	・ラジオのしくみ ・電波 ・はんだづけ ・工具の使い方 ・プレゼンテーションの制作	・プレゼンテーションソフトの評価 (知)(思)(主)
10			
11			
12			
1	生物の育成(7) ・溶液栽培	・作物の栽培方法 ・水耕栽培と固形培地耕について	
2			
3			

家庭科 第2学年の目標

- (1)衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れをすることができる。
 (2)自分や家族の生活を豊かにするために、自分らしいアイデアや工夫で、布を用いた作品を作ることができる。
 (3)家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できる。
 (4)地域の食文化について理解を深め、郷土の食文化を生かした食生活を工夫することができる。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	衣生活 衣服のはたらき 布の種類 繊維について 衣服の手入れ 被服製作実習	・衣服のはたらきと手入れ ・衣服は何でできているか知る ・いろいろな繊維を理解する ・様々な手入れの方法を知る ・エコバックの製作	・ワークノート ・課題レポート ・定期テスト ・作業記録
5			
6			
7			
9	既製服の選び方 和服の文化 持続可能な衣生活 住生活	・既製服の表示について知る ・ゆかたの着方 ・環境に配慮した衣生活 ・生活を支える住まい ・家庭内事故への備え ・災害に備えた空間	・ワークノート ・課題レポート ・定期テスト ・製作品 ・作業記録 ・振り返り
10			
11			
12			
1	消費生活・環境 調理実習 消費者の権利と責任	・消費生活のしくみ ・いろいろな購入方法と支払い方法 ・消費者被害と消費者の自立 ・日常食の調理 ・自立した消費者になるために	・ワークノート ・課題レポート ・定期テスト ・振り返り
2			
3			

③ 3学年

技術科 第3学年の目標

- (1)エネルギー変換の技術の学習を通じて、エネルギー材料の特性や活用法を理解し生活に生かす。
- (2)情報の制作を通じて、情報モラルを身に付ける。
- (3)情報の技術の学習を通じて、プレゼンテーションソフトを活用する。プログラミングの基礎を身に付ける。
- (4)コミュニケーションを通じて、協働して生活を向上する意欲を育てる。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	エネルギー変換の技術(6) ・運動の利用	・セキュリティ ・回転運動 ・運動を変化させる機構	・定期テスト (知)(思)(主) ・動く模型の製作 (知)(思)(主) ・プレゼンテーションソフトの評価 (知)(思)(主) ・作図 (知)(思)(主) ・鑄造作品 (知)(思)(主)
5			
6			
7			
9	材料と加工の技術(8)	・動く模型の製作 ・プレゼンテーションの制作と評価 ・型取り ・鑄造 ・研磨	
10			
11			
12			
1	情報の技術(3. 5) ・情報技術の未来	・情報技術の未来(人権)	
2			
3			

家庭科 第3学年の目標

- (1) 幼児に関心を持ち、幼児の発達と生活、それを支える家族の役割や遊びの意義について理解する。
- (2) 自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解する。
- (3) 家庭生活における消費の重要性に気づき、物資やサービスの適切な選択、購入および活用ができ、環境に配慮した消費生活が工夫できるようにする。

月	単元名	指導内容	評価方法
4	幼児の生活と家族	・幼児のころと今の自分を比べる ・人の一生を考え今の自分を意識する	・ワークノート ・課題レポート ・定期テスト ・調べ学習 ・作業記録
5	幼児の体の発達	・幼児の体の発達の特徴を知る	
6	幼児の心の発達	・幼児の心の発達の特徴を知る	
7	発達にとってのおとなの役割	・おとなの役割、家族の役割を知る	
9	おもちゃの製作	・製作物の計画 ・作業手順の記録	・ワークノート ・課題レポート ・定期テスト ・製作品 ・作業記録 ・振り返り
10			
11	幼児の発達と衣生活・食生活		
12	おやつ作りの調理実習		
1	遊びを支える環境	・子どもの権利や子育てをめぐる問題、子育てを支援する仕組みについて知る	・ワークノート ・振り返り
2	こどもの健やかな成長のために		
3			